

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立常磐小学校

校長名 安田 幸典

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 常磐の「ひと・こと・もの」から学び提案するぎふMIRAI's(生活科や総合的な学習の時間)を構築する。 教育DXを推進するとともに、「ここからが、わからない。」と言える授業づくり、学級づくり、人間関係づくりをしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新規に畜産センター・ふれあいプラザ常磐等での活動を加え、多くの施設やふるさと先生の力を借りて、地域から学ぶことができた。自分たちでできることを「提案」することを出口として主体的に考えることができるようになってきた。 安心して「ここからが、わからない。」と言える学級や人間関係ができてつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 常磐のよさを語り、自分たちにできることを提案するというぎふMIRAI'sの取組が具現化されている。 「わからない」と伝え合える安心感が、授業の様子からも伝わってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ぎふMIRAI'sの取組を見直し、継続していくことで、「常磐小版ぎふMIRAI's」をつくっていく。提案時にもふるさと先生を招くなどして、成長を振り返るようにする。 「わかったこと・わからないこと」を言語化する授業づくりをしていく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> これまでの教育活動を検証しつつ、コミュニティ・スクールのより効果的な運営・実施を図る。 計画的に幼保小連携の取組を位置づけ、児童理解と保護者理解を通して、効果的なスタートカリキュラムを実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童会活動、児童の挨拶ボランティア、PTAやまちづくり協議会長による挨拶運動等の積み重ねが、「目を見て」「自分からあいさつする児童の姿へと大きく変容した。 幼保職員の授業参観と意見交流を行い、配慮事項を再確認した。新1年生の引継ぎにあたっては、保護者との連絡調整を保小共同で行うことで、スムーズに就学へとつないだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度第2回学校運営協議会で話題になった「あいさつ」について、まちづくり協議会の取り組みとして行った結果、1年の時を経て子どもたちの姿として成果が見られるようになった。 「目を見て」「自分から」が、挨拶の共通ワードになりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ」の取組を成功例とし、学校運営協議会やまちづくり協議会とタイアップして「子ども110番の家」を増やし、見守りの形を見直す。 幼保小の連携をさらに強め、スタートカリキュラムの充実を図る。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくりにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 緩やかな学年担任制による児童理解と指導支援の充実を図る。 職場の対話を増やし、「問い」を生み出す同僚性を醸成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 緩やかな学年担任制・教科担任制を通して、職員皆で全校の児童を見ていく意識が醸成され、学年の壁なく児童に声を掛ける職員集団になってきた。 ICTの利活用や生徒指導案件などについて、職員同士が安心して相談できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを学校組織として見守る態勢作りができています。 子どもが落ち着いて授業に向かっている。学級の雰囲気よさをどの教室からも感じて取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> あたたかな人間関係の中で、「競い合う」場面や、「チームワーク」を醸成する活動を、(運動会に限定せず)1年の教育活動の中で位置づけていく。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 危険を予測し回避する能力を育成する指導の工夫・改善を行う。 「常磐小学校いじめ防止基本方針」に基づき、迅速かつ適切な対処をするとともに、「相手を思う」(生命尊厳理解と相手理解)学びを進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のシェイクアウト訓練や、複数の災害を想定した命を守る訓練を行った。想定外の時にも対応できる力をつけていきたい。 毎月の「いじめを見逃さない日」に、全校が自分事として考える時間を設けた。いじめアンケートや日常の情報収集に心掛け、組織で対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のシェイクアウト訓練は、意義がある。「生死を分ける8分間」という言葉通り、「5秒でポジショニング」が浸透している。 いじめにつながる事案に丁寧に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> シェイクアウト訓練を継続する。子ども自身が考え判断する機会となるよう、様々な場面を想定して訓練を行う。 いじめアンケートや教育相談を令和5年度のペースで継続する。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 危険個所の早期発見を継続し、修繕や要望提出を迅速に行うことにより、安心安全な教育環境をつくる。 財務や納入金の適切な取り扱いがされているかを複数の目で常に確認し、より有効に運用する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検を確実に行うと同時に、危険個所の早期発見に努め修繕を速やかに行った。未対応の場所については、引き続き市教委へ要望書を提出していく。 複数の目で確認することにより、財務や納入金の適切な取り扱いがされた。保護者アンケートでの評価が一番高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な箇所の修繕が行われてきたが、トイレや体育館のカーテンの修繕は、必要である。 本の紹介がどの教室にもしてあることが、よい。長年継続されている「PTAの読み聞かせボランティア」と、帯時間の「読書」タイム、そして図書館をさらにつないでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> トイレや体育館のカーテンの修繕に係る要望書を出していく。 読書が向上するような工夫をするとともに、子どもたちの読書生活の様子を家庭に知らせる機会を設けていく。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/tokiwa-e/>